

令和8年度 教育研究推進計画

研究主題

主体的に学び 考えを深める 児童の育成
～小規模校の特性を生かした算数科授業づくりの工夫を通して～

1 主題設定の理由

本校は、第1学年が単級、3・4年、5・6年が複式学級編成の小規模校である。少人数であるため、全員が発言の機会をもち、自分の考えを説明しようという意欲をもっている。

これまで、児童が日常の事象を数学的に捉え、見通しをもち、筋道立てて考え表現する課題を設定し、そのことから児童が友達と交流し、考えを深めることができる授業づくりをめざしてきた。これらの取組により、昨年度の三次市学力到達度検査では、算数科の通過率は、3年生以上の全学年で全国平均・市平均を上回っていた。しかし、式・言葉を用いてを記述する問題の正答率が低いことから、学習したことを活用して、児童が思考・判断・表現できる授業づくりを行う必要があると考える。児童が目的意識をもって意欲的に取り組むための課題を設定し、自分の考えをもち、友達と話し合うことによりよい考えや方法があることに気付いたり、友達の考え等を吟味することで自らの考えを深めたりするプロセスを大切にしていく。その際、「数学的な見方・考え方」を働かせながら、習得した知識及び技能を活用して課題を探究したりすることにより、日常の事象の課題を解決するための思考力、判断力、表現力等も育成されたと考える。

2 研究仮説

身につけさせたい力を明確にし、小規模校の特性を生かした学びを工夫すれば、主体的に学び、考えを深める児童を育成することができるだろう。

3 研究の内容と具体的な取組

(1) 単元構成の工夫（課題発見・解決学習の実践）

- ・ゴールの姿をイメージした単元計画の作成
→単元計画の中に児童の変容が見え、意欲的に取り組むことができる課題の設定
- ・「めあて」「まとめ」の整合性をはかり、「まとめ」に向かうための授業の組み立て
→本時で何を学ばせ、どのような力を児童に付けたいのか明確にする

(2) 協働的に解決する学び合い

- ノート作りの充実
 - ・思考した内容を表現するため、図や言葉、式を選択し、自分の考えを書く。
- 練り合いの場で考えを深めるためのファシリテート

(3) 振り返りの充実

- ・振り返りを促す学習過程や発問の工夫

→児童自身がどのような数学的な見方・考え方を生じたのか、何ができるようになったのか、明確にする。

・振り返りシート活用

→C評価の児童への手立てを考え、次時の指導に生かす。

4 検証の指標と検証方法

検証の指標	検証方法	検証時期
単元末テスト	算数科の単元末テストにおける到達度を80%以上にする。	単元末
	算数科のテストにおける「思考・判断・表現」の到達度を80%以上にする。	
児童意識調査	・「算数の時間に別解を考えた」と肯定的回答をした児童の割合を90%以上にする。	学期末
指導者意識調査	・児童は自分の考えを図や式、言葉等を使って考え、分かりやすく表現できた。 ・振り返りを授業に位置付け、見通しをもって学習させることができた。 ・練り合いの場で考えを深めるためのファシリテートを行った。 →4段階尺度評定法によって2.8以上にする。	学期末

5 研究推進計画

(1) 理論研修（4月～5月）

・研究主題について理論研修を行い、全指導者が共通認識をもって取り組む。

(2) 授業研究の実施（6月～1月）

・「数学的な見方・考え方」を働かせる授業づくりを視点とした参観授業を行い、授業改善を図る。

・学期に1度、実践交流を行い、自己の授業を振り返り、成果と課題を整理するとともに、全学級で取り組むことを確認する。

(3) 研究のまとめと次年度の研究推進の計画立案（2月～3月）

・検証の指標に沿って分析し、次年度に向けての方向性を確認する。